

序論)

みなさん、あけましておめでとうございます。新しい年もこのように皆さんと一緒に【主】を礼拝してはじめられることを感謝いたします。

さて、昨日のメッセージでは【主】が神の民のために荒野に花を咲かせてくださり、傷ついた人と世界を癒やしてくださり、何よりもキリストという聖なる道を与えてくださっているという恵みを確認しました。そして、【主】に贖われた私達はこの希望を握りしめて、寄留者として、世の旅人として歩いていくということをお話しました。

今日はある意味ではその続きとなります。というのも、昨日読んだイザヤ書の箇所と今日取り扱うヘブル人への手紙の11章、12章は内容が非常に共通しているものとなっているからです。恐らくヘブル人への手紙の著書は、イザヤ書を意識しながら書いたのではないかなと思います。

なぜならば、例えば「私達はキリストという道を歩いて【主】のところに帰っていくのだ」という話を昨日しましたが、ヘブル人への手紙11章にかかれています。信仰の先輩たちの歩みは、イザヤ書で語られているような天の故郷^{ふるさと}を目指しての歩みであったということが語られています。11章13節と16節を読んでみます。

11:13 これらの人たちはみな、信仰の人として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるか遠くにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり、寄留者であることを告白していました。

11:16 しかし実際には、彼らが憧れていたのは、もっと良い故郷、すなわち天の故郷でした。ですから神は、彼らの神と呼ばれることを恥となさいませんでした。神が彼らのために都を用意されたのです。

私達、信仰者の歩みというのは昨日もいいましたが、この世の一時的な歩みだけをみて生きていくのではなくって、天の故郷^{ふるさと}、【主】のみもとに行くことを目的として歩いていく。そして、そのために私達は神様の約束を信じる信仰によって歩いていきます。

だから、昨日のイザヤ書において神様は、「弱った手を強め、よろめく膝をしっかりとさせよ。」(35:3)と命じられていました。そして、その命令は、ヘブル人への手紙の12章でも語られています。12章12節13節

12:12 ですから、弱った手と衰えた膝をまっすぐにしなさい。

12:13 また、あなたがたは自分の足のために、まっすぐな道を作りなさい。足の不自由な人が踏み外すことなく、むしろ癒やされるためです。

これは間違いなくイザヤ書 35 章で語られた預言を踏まえてのみことばだと思えます。

ですから、私達は、ヘブル人への手紙 11 章で語られているアベル、エノク、ノア、アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフ、モーセ・・・こういった人々と同じように、信仰によって天のみ国を目指して歩いていく。これこそが、旧約聖書と新約聖書の両方が共通して私達に求めている生き方なだということがわかります。

競争への招き)

事実、今日の箇所、12 章 1 節ではこのように語られています。

12:1 こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、一切の重荷とまとわりつく罪を捨てて、自分の前に置かれている競走を、忍耐をもって走り続けようではありませんか。

旧約聖書に出て来るアブラハムたちの生き方というのは、目に見えない神様を信じて従うことによって、彼らの生き方が正しいということを証明していました。

例えば、アベルがなぜ、神様に喜ばれる生贄を捧げることができたかという。それは神様こそ、最善を尽くして礼拝するべきお方だと彼は信じていたからです。だから、アベルは最善の生贄をささげ、神様はそのアベルの信仰をみて彼の生贄を喜んで受け取り、彼の信仰が正しいことを証明してくださいました。

また、ノアはなぜ洪水の裁きが行われる前から方舟を作り始めることができたのでしょうか。まだ成就していない神様のことばが必ず実現すると信じたからです。だから、結果的に彼は方舟をつくることによって、彼の信仰の正しさを証明し、神様に従わなかった人たちの罪を明らかにしました。

このようにしてみると、信仰というものは、私達が【主】に従うための原動力であ

り、そして、その信仰によって実際に、まだ結果を見る前から【主】を信じて従うと、その信じたことが正しいということが証明されていく。
それが旧約聖書にみる、信仰の先輩たちが示して下さった証明なのです。

神様は旧約聖書にかかっているそういった信仰者たちを通して、私達が【主】を信じて従っていくことの正しさというものを何回も証明してくださっていたのです。そのような証明が、信仰者の歴史の中にはいっぱいあるから、「私たちも、一切の重荷とまとわりつく罪を捨てて、自分の前に置かれている競走を、忍耐をもって走り続けようではありませんか。」と聖書は私達に勧めています。

2) 具体的に私達に勧められていること

みなさん、ここには大きく分けると2つのことが勧められています。

一つは「一切の重荷とまとわりつく罪を捨てる」ということ。

もう一つは、「忍耐をもって走り続ける」ということです。

わたしにとって信仰的に生きていくということは、この2つを実行することなのです。

では、具体的に考えてみて「一切の重荷とまとわりつく罪を捨てる」とはどういうことでしょうか。ここに出て来る重荷というのは、元の意味としては「重要なもの」とか、「吐出しているもの」という意味があります。

みなさん、私達が「これは重要だ」「これは突出しているもの・・・特別に大切なものだ」と思っているものが、実は私達の信仰生活の重荷になってしまうということがあるのです。

例えばアブラハムにとってのイサクです。みなさん、イサクはアブラハムたちが年をとってから、やっと神様に与えられた大切なひとり子ですよね。普通に考えればこの子を殺すなんてことはありえないことです。それだけアブラハムにとってイサクという存在は、重要な存在であり、大切な存在でした。でも、もしアブラハムがこのイサクを捧げることを惜しんだとしたら、彼は【主】の試練を乗り越えることができなかつたでしょうし、彼が信じている神様が「アドナイ・イルエ」「【主】の山には備えがある」、【主】は、「私達のためにすべてを備えてくださる」ということを知ることはできなかつたでしょう。

みなさん、私達が【主】に従うためには、自分が重要だと思っているもの、大切だと思っているものを手放さなければいけないときがあるのです。それが【主】に従うための重荷を捨てるとのことなのです。

もう一つ、私達はまとわりつく罪を捨てなければいけません。ご存知の通り、罪というのはギリシャ語でハマルティアとって、的外れを意味しています。私達にまとわりついてくる罪というものは、本来私達が見つめるべきものから、別のものへと意識を向けさせるのです。

本来、信仰をもって見るべきものを見えなくさせる。それが罪です。だから、私達はただ自分が神様に裁かれないようにするためだけではなくて、信仰をもって目指すべき目標を見失うことがないためにも、罪をすてて歩まなければ行けないのです。天の故郷、神の国という目標を見失わないためには罪を捨てなければいけません。

そして、もう一つ、私達の信仰の歩みは「忍耐をもって走り続けること」だと聖書は教えています。なぜ、私達は忍耐をしなければいけないのでしょうか。

ここでもう一度 11 章のみことばに目を向けていきましょう。

11 章 35 節後半から 38 節

11:35b また、ほかの人たちは、もっとすぐれたよみがえりを得るために、釈放されることを拒んで拷問を受けました。

11:36 また、ほかの人たちは嘲られ、むちで打たれ、さらに鎖につながれて牢に入れられる経験をし、

11:37 また、石で打たれ、のこぎりで引かれ、剣で切り殺され、羊ややぎの皮を着て歩き回り、困窮し、圧迫され、虐待されました。

11:38 この世は彼らにふさわしくありませんでした。彼らは荒野、山、洞穴、地の穴をさまよいました。

信仰の歩みは、神様が共にいてくださるから大丈夫。なんの苦勞も心配もないとって鼻歌を歌いながら歩み続けることができるものではありません。

ここにあるように、この世は信仰者にとって相応しいところ、本当の居場所となるところではありませんから。様々は迫害を受けながら、時に苦しみ続けながら、忍耐をもって歩いていくことが、私達の信仰の歩みなのです。

みなさん、私達はですね。できれば楽をしたい。苦しみたくない。そのように思います。でも、聖書が求める信仰生活は忍耐をもって走り続ける信仰生活なのです。なぜでしょうか。私達の信仰の創始者であり、完成者である【主】イエスキリストが歩んだ歩みこそが、忍耐をもって辱めをものともせず十字架を耐え忍んだ歩みだったからです。だから、聖書は2節のようにいっています。

12:2 信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。この方は、ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです。

みなさん、聖書はイエス様のことを信仰の完成者だけではなく、創始者といっています。この創始者というのは言い換えると「指導者」という意味があります。イエスキリストは私達を指導してくださる。導いてくださるお方なのです。じゃあ、旧約時代の信仰の先輩たちはイエス・キリストの指導を受けていたのかというと、キリストの指導を受けていたのだと。聖書に書かれています。このヘブル人の手紙 11 章の 24-26 節

11:24 信仰によって、モーセは成人したときに、ファラオの娘の息子と呼ばれることを拒み、

11:25 はかない罪の楽しみにふけるよりも、むしろ神の民とともに苦しむことを選び取りました。

11:26 彼は、キリストのゆえに受ける辱めを、エジプトの宝にまさる大きな富と考えました。それは、与えられる報いから目を離さなかったからでした。

モーセが目を離さなかったのは、キリストの故に与えられる報いでした。旧約聖書時代、キリストはまだ受肉されていないのに、なんでこんなことを言えるのかというと、聖書記者たちが聖霊によって教えられていたからだというしかないんですけども。

聖書は、モーセが王宮の暮らしではなく、神の民と共に苦しむことを選んだのは、キリストのゆえに受ける辱めのほうが、エジプトの宝よりも価値がある。天のみ国の報いにつながるものだと、キリストによってお教えられていたからです。

みなさん、【主】イエスキリストは私達がどのような信仰生活をしたらいいかを指導いてくださるお方であり、同時に完成させてくださるお方です。だから、私達はキリストから目を離さずに歩むときに、様々な攻撃があったとしても、忍耐をもって歩み続けることができるのです。

そして、このキリストを見続けて信仰生活をし続けていくということは、私達の心が元気で、疲れ果ててしまわないようにするためのものでもあるのだと、聖書はいいいます。

12:3 あなたがたは、罪人たちの、ご自分に対するこのような反抗を耐え忍ばれた方のことを考えなさい。あなたがたの心が元気を失い、疲れ果ててしまわないようにするためです。

私達の信仰生活は、時に疲れるな。大変だなんて思う時があります。

そういった時に、私達は休みたいと思いますけども、私たちが休むための一番の方法はなにかというと、何もしないで寝て、休んで、静かにしていることではなくって、もちろん、そのような時も必要なんですけども。それと同時に、信仰の創始者であり、完成者である【主】をみて、【主】のみ苦しみを覚えて、それを黙想するところ、私達が霊的に強められ、癒やされる方法なのです。

なぜならば、【主】イエスキリストのみ苦しみは、先の見えない。希望もない。喜びもない苦しみではなくって、昨日のイザヤ書で示された通りに、荒れ地に花を咲かせ、私達が神の栄光を見てください、キリストによって父のみもとに行くことができしてくださるためのものだったからです。神様はキリストの贖いの業を覚えながら、イザヤを通して預言されたのです。イザヤ書 35 章 10 節

35:10 【主】に贖われた者たちは帰って来る。彼らは喜び歌いながらシオンに入り、その頭にはとこしえの喜びを戴く。楽しみと喜びがついて来て、悲しみと嘆きは逃げ去る。

【主】イエスキリストは、私達にこの喜びを与えることをご自身の喜びとされたのです。だから、辱めをものともせず十字架を忍び、復活し、昇天されて神の右の座につかれました。

だから、私たちはこのお方のみ苦しみをみるときに、そこに愛があり、そこに喜びがあることを知って、例え疲れていたとしても元気を回復することができるのです。

まとめ)

みなさん、私達の信仰生活は、時に自分が大切に思っているもの、重要だと思っ
ているものを手放してでも、【主】に従うものです。【主】を一番にすることです。

また、私達をなんとかイエス・キリストという目標から目を離させようとする罪
との戦いの人生でもあります。

さらには、私達の信仰を否定し、迫害する者たちの攻撃に耐え忍び続ける生活で
もあります。

でも、大丈夫です。旧約聖書にかかっている信仰の先輩たちはこの信仰の歩みが
正しいことを証明してくださいました。また、何よりも私たちの信仰の創始者であ
り、完成者である【主】ご自身が、十字架によって、その生き方の先には喜びがあ
ることを示してくださいています。

だから、いつも信仰の創始者であり、完成者である【主】から目を離さないよう
にしましょう。

【主】を見続け、【主】のみ苦しみを覚えていく時、私達は強められ、疲れ果てるこ
とはありません。寧ろ、私達は、十字架にみる。その【主】の歩みに励まされ、強
められて、モーセのようにこの世のどんな宝よりも、キリストと共に苦しみ、神の
民と共に苦しむ信仰生活こそ、本当に価値があり、喜びにつながるものであること
を確信することができるのです。

『信仰は、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。』(ヘ
ブル 11:1)

信仰をもってキリストを見つめ、信仰をもってキリストに従い、信仰によって目
に見えない神の国の価値を確信するものとなっていきましょう。